



## 見かけた外来生物についてかんがえてみましょう



外来生物とは、もともと日本にはいなかったのに、人のいろいろな活動(かつどう)によって、ほかの国(くに)からはいつてきた生物(せいぶつ)のことです。この夏(なつ)には「ヒアリ」も大きな問題(もんだい)になっています。そこで、よく見かける生物の中にも、じつは外来生物がいっぱいいます。その中のいちぶは、特定外来生物(とくていがいらいせいぶつ)として、人や農林水産業(のうりんすいさんぎょう)にわるいえいきょうがあるので、法律(ほうりつ)で指定(してい)し、生きているものだけでなく、卵(たまご)や種(たね)もふくめて、そだてたり、はこんだり、もっていたり、外国(がいこく)からもってきたりすることが禁止(きんし)されています。



## ウシガエル アカガエル科 アメリカより

世界・日本侵略的外来種ワースト100に指定

カエルの中では17cmと大きく、目のうしろの鼓膜(こまく)が大きくめだちます。池(いけ)やぬまにすんでいて、明石小学校西の公園(こうえん)の堀(ほり)にもいて、よく鳴(な)いています。オスが「ウオー、ウオー」となくので、ウシのなき声(ごえ)ににているためにウシガエルと呼(よ)ばれています。じつは、1916年に食べ物(たべもの)がすくなくなかったころに食べるためにもちこまれました。それが食べなくなっちはなされ、いまでは日本中(にっぽん)にいて、わたしも子どものころからよくつかまっていたので、まさか外来生物(がいらいせいぶつ)とは思(おも)っていませんでした。肉食(にくしょく)で、口(くち)にはいる大きさであればほとんどの動物(どうぶつ)を食べ、こん虫(こんちゅう)、ザリガニ、ほかのカエル、さかな、ときには小鳥(こどり)も食べてしまいます。そのため、むかしから日本(にっぽん)にいたカエルたちがへってしまっています。



むずかしいのでいえのひと いっしょによんでね

特定外来生物の規制事項

ウシガエル

## セアカゴケグモ ヒメグモ科ゴケグモ属

特定外来生物に指定 オーストラリアより

大きさは1cmほどで、黒(くろ)くて名前(なまえ)にもあるようにせなかに赤(あか)い帯状(おびじょう)のもようがあります。メスはつよい神経毒(しんけいどく)があり、攻撃性(こうげきせい)はないが、かまれるとはげしい痛(いた)みがあって、ひどいときははき気(け)や呼吸障害(こきゅうしょうがい)をおこすことがあります。卵(たまご)をたくさんうみます。1995年に大阪(おおさか)で見つかったから、どんどん広がってかまれる被害(ひがい)がふえました。わたしも家(いえ)の側溝(そっこう)や明石市(あかし)でも見つけて退治(たいじ)したことがあります。

きよねん、家で見つけたセアカゴケグモ





## オオキンケイギク キク科 アメリカより

にほんしんりやくてきがいらいしゆ  
**日本侵略的外来種ワースト100に指定**  
してい  
数年前(すうねんまえ)からよく目立(めだ)つきれいな花だとおもっていましたが、夏休(なつやす)みに大学(だいがく)の先生(せんせい)から特定外来生物(ていديدがいらいせいぶつ)なので、できればかりとってやいてしまうというように駆除(くじょ)しないとイケないときいてびっくりしました。



多年草(たねんそう)で、たかさ0.3~0.7mほどの大きさ、みちばたや河川敷(かせんじき)などにはえています。黄色(きいろ)の大きな花は5~7月にさき、ひろがる強(つよ)さがすごく強い。1880年ごろにおもに観賞用(かんしょうよう) (みるため)につれてこられました。いまでは日本中(にほんじゅう)にひろがっています。そのため日本(にほん)にあったツツザキヤマジノギクやカワラニガナなどの河川敷(かせんじき)の植物(しょくぶつ)がきえていっています。

**ヌートリア** ヌートリア科 か なんべい 南米より **ぼく、ヌートリア**

せかいにほんしんりやくてきがいらいしゆ  
**世界・日本侵略的外来種ワースト100に指定**



右(みぎ)の写真(しゃしん)は2月に明石川支流(あかしがわしりゅう)の伊川(いがわ)の中流(ちゅうりゅう)あたりで、朝(あさ)に見つけました。大きな動物(どうぶつ)が川(かわ)をゆったり泳(およ)いでいてびっくりしました。



流(なが)れのゆるやかな川(かわ)や湖(みずうみ)などで土手(どて)などに巣穴(すあな)をつくり、見た目は大きなドブネズミのようなかんじで、夜行性(やこうせい)でうしろ足(あし)には水かき(みづかき)があり、しっぽまでいれると1mほどもあります。1939年ごろから軍(ぐん)の毛皮用(けがわよう)につれてこられて飼育(しいく)していたものが、毛皮ブーム(けがわぶーム)が終わった1950年ごろからはなされてしまっして西日本中(にしにほんちゆう)にひろがった。年に2~3回出産(しゅっさん)して、2~5年ほど生(な)きます。ヨシやヒシなどの水生植物(すいせいしょくぶつ)を中心に、イネや水辺(みずべ)の農作物(のうさくもつ)も食べてしまいます。また、穴(あな)をほるために水田(みづり)のあぜやため池(ため池)のはかいをおこすこともあります。

ここでひなたぼっこ？

**ミシシippiaカミミガメ** ヌマガメ科 にほんしんりやくてきがいらいしゆ アメリカより

明石公園(あかしこうえん)のお堀(ほり)や池(いけ)で、たくさんのカメが甲羅干し(こうらぼし)をしているのをよく見かけます。でも、日本のニホンイシガメではなく、ほぼミシシippiaカミミガメです。明石市(あかし)では、平成26年(へいせい26ねん)から防除対策(ぼうじょたいさく)をしていて、昨年度(さくねんど)は1827ひきをひきとったそうです。でも、明石公園(あかしこうえん)には今(いま)もいっぱいいます。

すごい！先日、二見中の3年生が、温度によってオス・メスどちらになるかを研究して報告する予定と新聞に載ってたよ。



そんなにこわいかな？



子ガメ(こがめ)がかわいくてミドリガメとよばれて、1950年ごろから夜店(よだて)でカメつりなどのためにつれてこられて、つってもちかえったが大きくなると凶暴(きょうぼう)な顔(かお)で子ども(こども)がいやがりすてられ、日本中(にほんちゆう)で大繁殖(だいはんしょく)してしまった。大きさは28cmほどで、ひるまは日光浴(にっこうよく)をしています。雑食性(ざっしょくせい)で藻(も)や水草(みずくさ)、水生昆虫(すいせいこんちゆう)、ザリガニ、魚(さかな)と何(なん)でも食べてしまいます。